

5 令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①指導と評価の一体化・観点別評価の充実を図る。また、生徒の自学自習を促進させ、個別最適な学びを提供する。</p> <p>②福祉マインド・思いやりの心を醸成するべく、教科横断的な学習を実践する。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ生徒の主体性を育み自己肯定感を高める。</p>	<p>①指導と評価の一体化・観点別評価について再度教職員全体で確認をし、より良い評価につなげる。</p> <p>①生徒に自学自習の習慣をつけさせる。</p> <p>③生徒の主体性を育み自己肯定感を高める。</p>	<p>①職員研修を行い各観点の再確認をし、適切な評価に結び付ける。また、形成的評価の理解を深める。</p> <p>①各教科で定期的に宿題や課題を設定し各自が学習に取り組めるようにする。</p> <p>③行事等に向け、委員会活動を定期的に行い生徒が主体的協働的に活動する支援を行う。</p>	<p>①各教科の各観点の評価基準などが改善されたか。形成的評価の理解が深まったか。</p> <p>①生徒による授業評価の学習の取組みが改善されたか。</p> <p>③行事後のアンケートで、生徒が主体的協働的な活動をしたという実感が表れているか。</p>					
2	(生徒指導・支援)	<p>①困難を抱える生徒の現状をとらえ、支援の方向性を定める。</p> <p>②生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、問題行動への対応を充実させる。</p>	<p>①生徒の現状を確認し、生徒が抱える困難やニーズを把握し諸機関と連携した支援を行い、より良い支援に結び付ける。</p> <p>②社会に通用する人材育成をする。</p>	<p>①グループと各学年・学校全体が情報を共有し生徒を観察し、問題行動等の未然防止に取り組む。</p> <p>①校内外の専門家や教育機関との連携に努め、組織的支援体制をさらに充実させる。</p> <p>①ティームティーチングや学習支援員・学校ボランティアの活用により、生徒の実態に応じたきめの細かい支援を行う。</p> <p>②在学中に成人になることをふまえたマナーのさらなる向上に取り組む。</p>	<p>①生徒の変化に気づきやすい環境を整え、迅速かつ生徒の実態に応じた支援ができたか。</p> <p>①SC・SSWを含め、チーム学校で組織的に教育相談を理解・促進することができたか。</p> <p>①生徒に応じたきめ細かい適切な支援を行ったか。</p> <p>②時機に応じた指導・支援を行い規範意識の向上に努めることができたか。</p>					

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①校内及び家庭での学習時間を保障し、生涯を通じた学習への態度を醸成する。 ②進路指導の充実を図り、生徒の進路第一希望を叶える方策をとる。	①学習時間の確保のため様々なツールを活用できるように工夫する。 ②生徒の進路第一希望を叶えるための方策を計画し実行する。	①各教科で指定したクラッシィやユーチューブの教育動画等を視聴させる。 ②生徒の希望進路に応じたグループクラスルームを作り、効果的な情報提供を行い、進路選択に資するキャリア教育を実行する。	①各教科で計画的に動画等を指定し生徒が視聴できたか。 ②効果的・計画的にキャリア教育に取り組むことができたか。					
4	地域等との協働	①地域との交流を学校全体に広げ、持続性を持てるようにし学校の社会的責任(スクール・ソーシャル・レスポンスビリティ)を果していく。	①より多くの生徒が交流事業に参加できるようにする。 ①ソーシャル・レスポンスビリティの概念を醸成し、学校の社会的責任を考えることができる生徒を育て、地域とともに発展する態度を養う。	①総合的な探究の時間を通じて地域の課題や文化を理解させ共生社会の在り方を考えさせる。また、地域との連携を強化し、専門家を学校に招き、講演やワークショップを実施する。 ①地域貢献の意識を涵養し、実践につなげる。	①総合的な探究の時間の発表を通じて自己の振り返りができたか。地域の活力を生かしたイベントを実施できたか ①地域貢献に今までより多く参加することができたか。					
5	学校管理 学校運営	①生徒が安心して通える安全な環境を整えるとともに、防災意識を高く持つ。また、校内美化に努める。 ②事故不祥事防止に努め、ヒヤットで食い止められる組織を作る。	①防災訓練の行い方を工夫し、災害に対応できる体制を築く。 ②事故不祥事防止会議・研修の在り方を刷新し、全ての教職員が自分事としてとらえることのできる場とする。	①災害時を想定したDIG研修と避難訓練を行う。文化祭では防災委員のパネル展示を行い防災意識を高める。 ①掃除用具の整備を進め、美化のための環境を整え、美化活動を促進する。 ②定期的に事故防止会議を開催し、事故不祥事防止研修では、教職員が講師となり、事故を自分事としてとらえることができるようにする。	①DIG研修と避難訓練を効果的に実施できたか。防災委員の展示を行ったか。 ①掃除用具の整備が進み、美化活動を促進できたか。 ②定期的に事故防止会議を開催し、事故防止につなげることができたか。職員が事故不祥事防止研修会の講師となり、自分事として研修に臨み、事故不祥事につなげることができたか。					